

産業廃棄物処理業における リスクアセスメント研修会開催

(一社)愛知県産業廃棄物協会安全衛生委員会(加山昌弘委員長)は2月2日(木)午前9時30分から名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)において、中央労働災害防止協会(中災防)中部安全衛生サービスセンター専門役・安全管理士・衛生管理士 山口好孝氏を講師にお招きして研修会を開催しました。リスクアセスメントの実施が努力義務化されている中、職場における災害ゼロを目指し、75名が受講しました。

開会の挨拶で加山委員長は、この研修会は産業廃棄物業界の労働災害発生状況を評価する度数率や強度率が高いので災害事故を減少させることが目的であり、研修の内容を是非会社で実践するよう述べました。



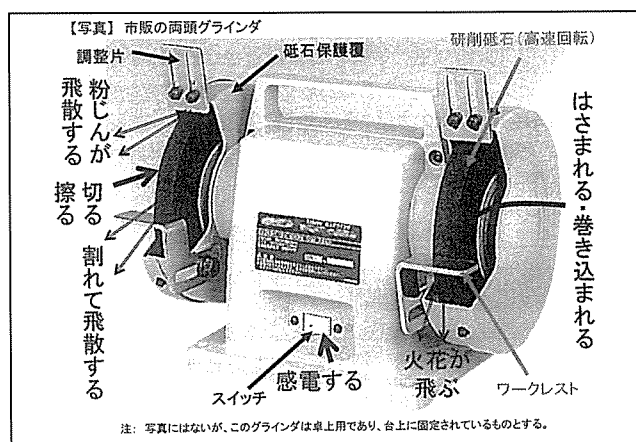
講師の中災防
山口専門役

その後、山口講師の研修が始まり、平成25年の産業廃棄物処理業における死亡災害事例として、業界の中で最も多い「はさまれ・巻き込まれ」の事例を挙げました。このような災害事

故を防ぐために安全管理として、法遵守型(最低基準)→自主対応型(安全衛生水準の向上)と後追い型(過去の災害に学ぶ)→先取り型(要因を未然に除去・低減)がまとめられ、リスクアセスメントになりました。実施時期として、建設物の設置、移転、変更、設備の新規採用、変更他の時期に行い、既存の設備、作業等についても計画的に実施することが望ましいとのことです。リスクの見積り・評価方法は数値化する方法が選択され、4名ほどのグループに分かれ演習を行いました。テーマは工場内の一場面を想定した絵が配布され、頻度、可能性、重大性、リスクポイント、リスクレベルを割出しました。見積りの数値は、各社の安全に対する若干の意識の違いが数値に現れ、他社の取組を知り自社を省みる

良い機会となったようです。その結果を踏まえ、リスク低減対策の検討を行いました。①本質的な対策(危険作業の廃止・変更、安全な方法への変更他)、②工学的対策(ガード、安全装置他)は人に依存しない対策として、機能が無効にできない、有効性を失うことがないようにする。③管理的対策(立ち入り禁止措置、教育訓練他)、④保護具の使用は人に依存した対策といわれ、その措置が守られるように管理が大切であるとのことでした。リスクの見つけ方として、人はミスする、機械は故障する、絶対安全は存在しない、という考え方から、メッタにない、マサカそんな、そこマデはしない、の3Mから「タブーの3M」が着眼点とのことです。また危険予知活動は直ぐに行うべき対策、リスクアセスメントは計画的に行う対策、と違いを説明しました。最後にリスクアセスメントは目的ではなく手段、対象の選択(職場の課題を最優先)、三現主義(現地、現物、現実)、活きた安全衛生教育(安全意識向上教育)となる、とまとめを述べ研修を終えました。

閉会の挨拶で渡邊専務理事は、リスクの低減の措置について予め検討していくことが、労働災害の発生予防において重要であることを改めて認識したと述べ、研修会は終了しました。



「はさまれる・巻き込まれる」の箇所、首に巻いていたタオルが巻き込まれ、亡くなった事例がある。